

ナイル架橋建設計画【ウガンダ】

施策所管局課 国別開発協力第三課
評価年月日 令和3年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	ウガンダ共和国
(2) 案件名	ナイル架橋建設計画
(3) 目的・事業内容 *閣議決定日、供与条件などを含む	ウガンダ国ジンジャ県に位置し、ケニアのモンバサ港からウガンダの首都カンパラへと続く北部回廊上に位置するナイル川に架かる橋梁及びアクセス道路等を建設することによって、同国における北部回廊上の輸送能力増強及び安定化を図り、もって地域経済の活性化、同国の経済成長、周辺国との経済統合推進に寄与するもの。 案件の内容 ・プレストレスト・コンクリート斜張橋の建設 ・アクセス道路の敷設 ・コンサルティングサービス ア 閣議決定日：平成22年10月29日（当初借款）/ 平成30年4月24日（追加借款） イ 供与限度額：91.98億円（当初借款）/49.18億円（追加借款） ウ 金利：0.01% エ 償還（据置）期間：40年（10年） オ 調達条件：一般アントайд
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	ア 社会ニーズの現状 本事業計画当初、ケニアのモンバサ港から首都カンパラへと続く北部回廊において、ナイル川を渡るナルバレ橋は、片側一車線の狭幅員で建設後50年以上経過したもので、老朽化、橋幅の狭さ等から、交通のボトルネックとなっていた。また、北部回廊は、輸出入の多くをモンバサ港に依存するウガンダ国および周辺内陸国にとって極めて重要な物流ルート（同港で積み替えられる貨物の78%がウガンダ向け、同国を通過して周辺内陸国に輸送される貨物の約98%が同港依存）となっていたことから、新橋の建設は優先度の高い計画であった。現在においても物流ルートとしての北部回廊の重要性は変わらず、社会的ニーズは引き続き高い。 イ 事業遅延に関する経緯・現状 本事業については、為替変動及び本体工事の契約金額の増加等を理由とする総事業費見込額の増加に対処するため、2018年4月に追加借款の供与を決定した。その後、2018年10月に工事は完工したが、瑕疵担保期間中にアクセス道路に轍（わだち）が発生する等の問題が複数の箇所で見られたため、修繕を行っており、遅延が発生した。また、実施機関（ウガンダ道路公社）は、本借款を通じて本事業の維持管理を目的として橋梁点検車等の調達を計画中であり、一時は手続に遅れが見られたものの、現在事業は進捗している。
(2) 今後の対応方針	本件に関する社会的ニーズは引き続き認められ、また工事は一旦完工しており当初予定どおりの効果が発現している。他方、一部箇所の修繕や、維持管理機材の調達が未完了であるため、同進捗を着実にフォローし、本事業の完了に向け支援を継続する。

3 政策評価を行う過程において使用した資料等	・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/zyoukyou.html) ・ 国際協力機構の案件検索 (https://www2.jica.go.jp/ja/yen_loan/index.php) ・ 国際協力機構の事業事前評価表 (https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/before.html) ・ そのほか国際協力機構から提出された資料
-------------------------------	--